

■令和4年8月2日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和4年8月2日（火）11:00～11:30
- 2 場 所 市役所本庁舎3階第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、教育次長、市長公室長、企画調整課長、都市デザイン課長、社会教育文化課長
○酒田記者クラブ11社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、山形新聞、荘内日報、NHK、YBC、YTS、TUY、SAY）
○コミュニティ新聞社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

1 第28回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ

市長／今日私の方からは、土門拳文化賞の受賞者が決定したという話題でございます。

お手元に資料がございますので、それをご覧いただければ分かるのですが、今回は第28回ということで、全国35都道府県106人の皆さんから116テーマの作品の応募がございました。その中で、山形県からの応募は3人でしたが、そのうち酒田市からの応募は2人という状況でございます。

応募作品の内容につきましては、また後ほど、資料の方をご覧いただければと思いますが、選考委員の先生にお聞きしましたところ、地方に残る祭りですとか、伝統芸能、それから山村で一人暮らしをする高齢者の日常、あと特に今回はロシア軍のウクライナへの侵攻に関する核戦争への不安ですとか、或いは絶えることのない社会的悪事とか、紛争をもたらすカオスの時代を、隠喩的に視覚化した重厚作が目を引いたと、このように伺っているところでございます。

それにつきましては、また後ほど資料の中に、選考委員の講評等もございますので、ご覧をいただきたいと思っております。

土門拳文化賞の受賞作品でございますが、「立ち止まる情景」これはモノクロ30枚組でございまして、静岡県静岡市の大角勝さん、70歳の作品でございます。どういう作品かということについては、別紙の資料の中身をご覧いただきたいと思っております。

それから、奨励賞受賞作品でございますが、これは3点ございます。

1点目は、「母 卒寿」ということでカラー30枚組、静岡県三島市の若林茂さん、65歳の作品でございます。

それから、奨励賞の2点目は、「一瞬」ということで、モノクロ30枚組で、群馬県安中市の井上宏さん、70歳の作品でございます。

それから、3点目については、「なにわ新世界ストーリー・コロナ禍の時代」ということで、モノクロ30枚組、大阪市の宮崎豊さん、72歳の作品でございます。

授賞式等の日程でございますが、9月4日、日曜日ですけれども午前10時から土門拳記念館におきまして、授賞式を執り行います。

また、この受賞作品展を同じく土門拳記念館において開催をする予定でございます。土門拳文化賞に係る発表事項は以上でございます。よろしく願いをいたします。

■代表質問

1 JR 東日本や国土交通省による鉄道不採算路線の議論について

記者／JR東日本や国土交通省が不採算路線について議論をしています。陸羽西線について、酒田市として何かしらの手立てを講じるのか、他自治体と協力するのか伺いたい。

市長／これも前に1回、記者クラブの皆さんから質問があったかと思いますが、この陸羽西線もそうですし、羽越線の関係で、酒田-羽後本荘間の状況、データが出ました。

これはやはり、乗る人がいないという厳しい現実を如実に表しているなど、そんな思いを持って受け止めさせていただきました。

従いまして、我々としては、まち自体の取組みとして、やはり住民の皆さんが利用するという必要ですけれども、観光客を含めて、いろいろな方々がJRの路線を使って酒田を訪れる、そのための仕掛けづくりというものを、まちとしてはやっていくことで、とにかく利用者を増やすというのはそういうことになるのかなど、このように思っております。

乗っていない現状を憂いても仕方がないわけですから、乗ってもらうためのまちのにぎわいづくりというものを、これから意識して取り組んでいく必要があるかなど、このように思っております。

陸羽西線につきましては、これも前にお答えしたことがありますが、山形県、それから沿線の市町村、それから経済団体等で組織します山形県鉄道利用・整備強化促進期成同盟会という組織がございます。

会長は、山形県知事の吉村知事でございますけれども、その活動の中で陸羽西線の存続に向けては、沿線自治体、山形県と協力をしながら取り組んでいく必要があるだろうと、このように思っております。

陸羽西線については、今、バス代行期間中ということで、実際は鉄道運行してないわけですが、新庄酒田道路の該当区間が開通すれば、再び運行を開始するというふうに我々は情報としては受け止めております。ただそうであったにしても、これだけ乗降客が少ない現状からすると、やはり廃止、廃線ということについては危機感を持って受け止めていかざるを得ないのかなど思っておりますので、そうならないために、県、そして沿線市町村の皆さんと一緒に、何らかの行動は取っていく必要があるだろうと思っております。

ただ、先ほども言いましたように、まず我々がやれることは何かというと、酒田のまちづくりの中で、より多くの皆さんから集まってもらうための様々な仕掛け、これは、ハードもソフトもそうですが、やっていくということが肝要なのかなど、そんな思いを持っているところであります。

2 今後の公共交通の展開等について

記者／庄内交通のバス運行廃止で市内では新たなバス運行による公共交通が開始されましたが、今後の展開や現在の所感をお聞かせください。

市長／8月1日から、光の湊のグランドオープンに合わせてということになりますけれども、本市における公共交通体系の改編を行わせていただきました。

ご存知のとおり、るんるんバスの運行の拡充、それからデマンドタクシーの新規路線の導入という、これが主な柱になっているわけでありまして、我々としては、路線バスについては、運行経路ですとか、時刻を全体的に見直すことで、分かりやすく効率的な運行となるような変更を今回させていただいたというものでございます。

それから、デマンドタクシーにつきましては、これまでの庄内交通さんの路線バスに代わって、新規の運行エリアを拡大したところでございました。浜中、黒森、十坂、八幡、平田地域に運行エリアを拡充させていただいたところでございます。

まずは、利用状況を把握しながら、今後、指定乗降場所の増加や、運行日の拡充、或いは時刻の変更など、より利便性の高い交通システムとなるように、日々改善をしながら取り組んでいきたいなど、このように思っております。

るんるんバスの路線もそうですが、今スタートしたばかりですので、少し状況を見させていただいて、より利用しやすいバス路線、デマンドタクシー路線について、日々改良を加えていきたいと、このように思っているところであります。

なお、やはり住民の皆さんがどういう反応を示すか、適宜、アンケート調査等も行いながら、そのデータをベースにして様々な改良、改善等を図っていきたいと、このように考えております。

記者／今の関連ですけれども、すでに改善はしたけれども、現状でもまだ解決できてない課題等がありましたら、お聞かせください。

市長／私個人的には、るんるんバスについて言うと、やはり市内の循環線については、かなり時間が掛かります。循環するコース、或いは乗降場所、その辺の使いやすい仕組みをどうするかということについては、日々検証していく必要があるかなと思っております。

また、デマンドタクシーについても、新しいエリアを開発しましたけれども、バスとの比較の中で、本当にこちらの方が皆さんから便利で使いやすいと言ってもらえるかどうかを検証していく必要があるかなと思っておりますので、まずは様子を見させていただくということかなと思っております。

今回の公共交通体系の改編に当たりまして、やはり我々市の財政に与える影響、この辺も少し注視していく必要があるかなと思っております。

これまでも、庄内交通さんには補助を出したりと、いろいろと行って来たわけですが、今回の見直しによりまして、市の財政全体にどのような影響を及ぼしてくるかということも、実は関心がございますので、市民の利便性ととともに、市の財政負担に与える影響、こういったものも注視をしていく必要があるかなと、このように考えております。

あと、デマンドタクシーについては、我々は今まで高齢者の足かなという考えだったのですが、路線バスが無くなった関係で、高校生の通学などにも使えるような仕掛けを

させてもらっていますが、それが本当に功を奏するのか、高校生の皆さんの評判等、その辺のところも少し見ていきたいなど、このように思ったところでもあります。

いずれにしても、通勤・通学、それから観光客の足として、機能する酒田市独自の公共交通体系というものを模索しながら、引き続き、不断の努力を続けていくと、そういう姿勢で向かいたいなど思っておりますので、よろしく願いをいたします。

記者／今、お話にありましたが、市の財政負担の影響を注視するということですが、今のところの見通しとして、庄内交通に払った負担が減る等、どのような見通しがあるのか。

都市デザイン課長／今、市長からお話ありましたとおり、財政的な部分というのは、かなり大きい部分がございますけれども、今回、庄内交通のバスの方に出ていた補助の部分が、るんるんバスの方に動くということで、その部分については若干削減効果というのは出ております。

ただやはり、結果として乗っていただかないと、公共交通を維持できませんので、そこについては、これからも引き続き周知して、多くの方から乗っていただくように努力していきたいと考えております。

■フリー質問

1 県知事と市長会との意見交換について

記者／昨日、知事との意見交換が行われました。先の選挙戦の時にいろいろな議論もありましたが、今回、実際初めて行って見た感想や感触はどのようなものでしたでしょうか。

市長／実は、当日一定のやり取りが終わってから、南陽市長さんが意見を述べられたのですが、もっとざっくばらんな話が出る場であってもいいのではないかという話がありました。

私の方からは、水道に関する垂直水平統合という話を出させてもらったのですが、これについては実は知事をお願いするのは3回目でした。1回目は、庄内開発協の重要事業要望の時に庄内地域の一番の課題だということで知事に要望させていただいて、2回目は、酒田市の重要事業のときに、その1点に絞って要望させていただきました。

その時に、実はフランクに率直にいろいろな意見交換をさせていただきました。あの時、マスコミの皆さんが入っていたかどうかは分かりませんが、ざっくばらんに課題やこれからの方向性等いろいろな話をさせていただきました。

昨日の知事との懇談では、同じ案件で3回目ということもあり、私としては、言えなかったことをまた伝えることもできましたし、後ろに県の幹部の部長さんたちも並んでおりましたので、私の質問に対してだけ、くらし安全部長さんから補足の答弁もいただいたりしましたので、昨日の知事との懇談会は非常に有意義だったと思っています。

ただ、やはり、前もって質問項目を出して、それに対して県の方で回答準備をされて知事さんが回答するという形式、これはどうしてもそうならざるを得ないのですけれど

も、ましてマスコミの皆さんも入りますから、フランクにざっくばらんなやり取りと言ってもやはり限界があります。仕方がないとは思いますが、知事さんからは、あのような意見交換の場と、その後の、それこそざっくばらんにやり取りをする懇談の場をセットで設けたいと、今回コロナがあってそれができないということだったので、来年からはセットにすることで、本当に親しく話をする場もきちっと設けたいという話がありましたので、そういう場に期待をしたいなと思っております。

その意味では、昨日は第1回目でしたけれど、大変有意義な会だったと私は思っております。

記者／市長は、他の首長の方と、終わった後に話す機会があったのでしょうか。

市長／ありませんでした。

記者／他の市長の受け止めがどうかというのも、そこはまだ分からないでしょうか。

市長／分かりません。ただ、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、明日13市の市長会が、酒田の会場で開催します。

総会が終わった後に、懇談会のような場を設定しておりますので、そういった中で、少しいろいろとお話は聞いてみたいなと思っておりますけれども、これまでも市長会の中で議論しましたけれど、総じて、皆さん前向きに受け止めてくれたのではないかなと自分としては思っています。

2 光の湊のグランドオープン等について

記者／先ほど、市長のお話の中にもあったのですが、光の湊が先月グランドオープンを迎えられて、改めて、市長としてあの場所をどのように活用していきたいのか、作っただけではなく数値的な目標等も、もしあれば教えていただければと思います。

市長／なかなか数値的目標と言われると、答えに窮するのですが、私は31日の式典には出席できませんでしたが、前日のパーティーには出席しました。

ジャスコが撤退して25年が経ち、四半世紀の長い期間、酒田市の表玄関の顔だった場所が空き地になっていたということに対する地域の人たちの思いを考えると、ようやく、顔としては、ハードですが整備ができたかなと思っております。

しかし、他の自治体の例を見ても、建物だけ新しくしたから、そこでにぎわいが生まれたかというところとそう単純ではないです。

私どもは、図書館ですとか、ホテル、マンション、観光案内施設とかいろいろありますけれども、やはり、あの場所を市民、或いは市民以外の人も活用して、そこからいろいろ何かを生み出してくれると、それを期待しているわけです。環境を整えたということで、あとは市民の皆さんがどうやってあの場所を使って、酒田の地域の活力を生み出す様々な仕掛けをしてくださるかというところが、これからの狙いとするところだと思います。

それが無いと、結局、また、建物だけ新しくなったという形で、魂のない建物になってしまうので、やはりあそこを使う市民の方々、それからそこに訪れる市外の方々が、あの場でいろいろ交流をしたり活動をしたりして、地域やそれから自分も成長していた

だくというような、そういう機能を果たしてもらえればいいかなと思っています。

そのことが、結局先ほどもございましたけれども、ちょうどJR酒田駅の前だということで、JRの利用客に繋がれば、これは狙ったとおりの仕掛けができた、その時点で初めて〇の評価をいただけるのではないかなと思っています。今はまだ、形を整えただけという理解をしております。

3 JR 東日本や国土交通省による鉄道不採算路線の議論について

記者／先ほど代表質問のJRの件についてですが、にぎわいの部分で具体的に考えていること、JRの利用促進とか、陸羽西線や羽越線の活性化でもいいのですが、具体的に何か今考えているところがありますか。

市長／まず陸羽西線については今止まっていますので、これは如何ともし難いということなので、これから考えていく必要があるかなと思います。

羽越線については、例えば今週は雨模様のようなのですが、花火ショーもございます。やはり新潟とか秋田とか、或いは中央から人を呼び込む様々な酒田独自のイベント行事、それから庄内一丸となったイベント行事、こういったものを積極的に仕掛けていくことが大切なのだろうかなと思います。

東京とか、或いは主要な日本全国の主要な都市は、空港を利用するのが現実的だと思うので、それはそれとしていいのですが、飛行機で来られない人たち、JRを利用しないと来られない人たちへの集客をするような、いろいろな働きかけ、イベント、観光行事、文化行事、そういったものをやはり仕掛けていく必要があるかなと思っています。

そのことで、特に羽越本線を利用する方々に対する、何というのでしょうか、インセンティブになるような補助とか支援とかということではなくて、やはり皆さんが行ってみたいなと思ってもらえるようなイベントだとか、行事をもっともっと外に出していきたいと、そんな思いでおります。

■その他

- ・特になし